人 浪曲人生六十年

風間徳蔵さん
柳作 七十二歳

浪曲などというと今の若者たちは単に古臭いものとして無視するかもしれない。しかし、日本人の心をゆさぶる何かがある。それが何かはわからないが。

「父親も母親も歌が好きだったから、四、五歳ころに『越後追分』とか『さのさ節』などの民謡を教えてもらった。そして浪曲は十四歳で始めた」風間さんはそれ以来、浪曲を続け、今年で六十年になる。風間さんの芸名は寿々木富若。浪曲は農業や農協職員をやりながらの副業としてやっていた。

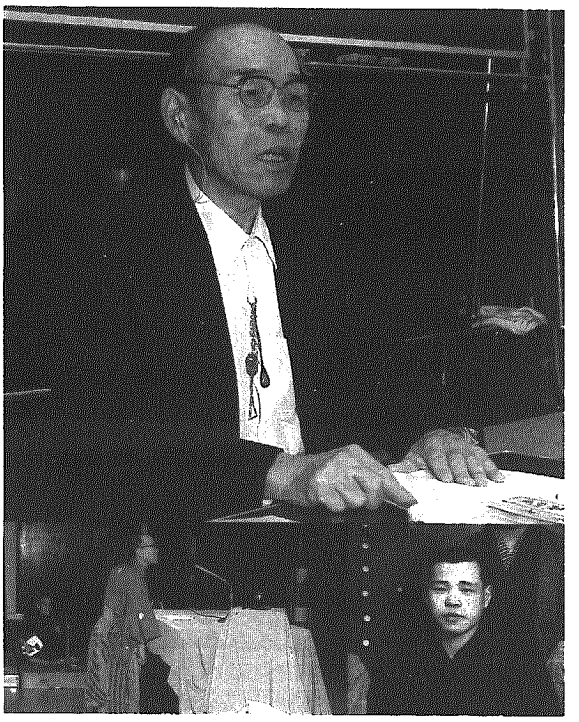
一時期、浪曲を本業にして全国各地を回っていたこともある。終戦直後から昭和二十七年に農協に入るまでの期間だ。「富山、秋田、岩手、山形とかへ毎月毎月行っていた。あのころは自分の家に帰って泊まれるのは月に一晩か二晩だったよ

芸人の厳しさもいやというほど味わった。興行師に金を持ち逃げされたこともある。「それに、あのころは紋付き、袴、着替え、一切をトランクに詰めて、ハイヤーなんてなかったから、歩かねばならなかった。相川から両津まで、冬だったけれど一晩かけて歩いたこともある。それから考えれば、今は殿様気分だね。ハイヤーで送り迎えしてもらえるもの」

風間さんが巡業に出ていた間、留守を守っていた妻のミヨシさん（六十六歳）は「子供を育てなきゃならなかったから、あの当時はほんとに大変だった。実家の親や弟から泊まりに来てもらったこともある。なにしろ、畑の中の一軒家だったからね」そしてこうつけ加えた。「昔はみんなが、テレビの『おしん』みたいなもんだった」

今の風間さんの生きがいは詩吟を教えることだ。詩吟は昭和十年ころから始め、号は風間柳風。柳作の柳の字をとってつけられた。戦争中、村の青年学校で詩吟を教えていたこともあった。だが、終戦後は昭和五十五年まで口にしなかったという。「詩吟というのは高尚なもの。日本の歴史に残った人たちの精神を伝え、心でうたわなくては。だから、酒の席や車の中でやったりはできない」

再び、詩吟を教えるようになったのは、柳作の老人会に頼まれてである。昨年は北部地区公民館主催の詩吟教室の講師も務めた。「もう私も年だからね、若い人たちに詩吟を教え、その心を伝えることが最後の勤めだと思っている」



上／柳作地区のサークル感謝会で詩吟を教える風間さん。
下左／浪曲をうたう風間さん（昨年10月6日、新潟公会堂で）。
下右／昭和15年ころの風間さん。すでに浪曲、詩吟を始めていた。

ほんの一冊

永遠のジャック&ベティ
清水義範
講談社刊

昨年の小説界は、出版点数から見ればジュヴナイル（少年少女小説）の一年間だったと言えそうです。著者・清水義範は、そんなブームの中から出てきた異能の新人作家で、「蕎麦ときしめん」から始まる文体模倣――パスティーシュ小説と呼ばれるパロディ短編群で注目を集め、「国語入試問題必勝法」で昭和63年吉川英治文学新人賞を受賞しました。

英語教科書の主人公、あのジャックとベティも、生きていれば五十歳になっているはず。本書は三十四年ぶりに再会した二人の奇妙な会話を描いた表題作に、著者の好んで取り上げる老人テーマと、ユーモアとペーソスを漂わせた八編が収められています。

活字中毒者には原典探しの楽しみもあり、お勧めの一冊となっています。

〈人の動き〉

3月末日現在（前月比）		前年同月比
人口	23,103（−43）	〔+ 221〕
男	11,329（−52）	〔+ 73〕
女	11,774（+ 9）	〔+ 148〕
世帯	6,116（−14）	〔+ 95〕

3月1日〜末日

出生	27	転入	194
婚姻	12	転出	252
死亡	14		

お、これは傑作だ。これで五月号の原稿も終わりだぞ。と喜んでいたら夢だった。この「編集室」の原稿を考えながら眠ってしまったというわけ（春はほんとによく眠れる）。どんなことを（夢の中で）書いたかというと、表面に現われた（美しい？）姿だけでなくその内側、裏面についても深く考えて物事を判断してほしいという、それだけ取り出したらなんてこともないことを、けれんみたっぷりに書いたというもの。どこが傑作なんだといわれそうだが、多少（どころか大幅に、だな）美化されるのは夢の中のことだからしょうがない。しかし、起きている状態でその「傑作」を読んでもつまらないだろうな、という気はする。夜中に書いた手紙を、昼間読むとなんてつまらないことを書いたんだろうと（たいていの人は）思うものだそうだが、夢見ている状態と起きている状態ではその差はもっと大きいはずだから。（それで何が言いたかったのかと言うと、この文章は残念ながらいいものではないということになりそうですね。だからといってそれをうのみにしないで、自分で判断しましょう）▼平成元年度も五十嵐、岩野が前年度に引き続き広報を担当します。よろしくお願いします。▼4月号の「ふるさと創生一億円の使い方アイディア募集」の封筒が届いています。締切りはもうけていません。あなたのアイディアを今からでもお送りください。お待ちしています。（岩野）

広報の編集に協力してくださる人募集

カット・イラストの描ける人、インタビューやレポートをしたい人など、お気軽にお申し込みください。また、お知り合いをご紹介ください。楽しい話題や頑張っている人もご連絡ください。

▼連絡先・役場企画開発課広報係
☎377−3101（内線46）

平成元年五月一日発行（毎月一日発行）
三〇八号 発行／黒埼町役場 〒950-21 新潟県西蒲原郡黒埼町大野六四五-一
電話／〇二五二-八四-三一〇一 編集／企画開発課（担当：広報統計係） 印刷／㈱博進堂 経費一部四五円